



義務教育学校 第9学年

第36号

令和元年12月20日発行

タイトル

9-C



2人の生き方に共通すること

副校長

師走に入り、令和元年もあとわずかとなりました。7、8年生は7日に夢講座があり、様々な職業や生き方についてお話を聞き、将来について改めて考えたのではないのでしょうか。また、9年生は、三者懇談が終わり、希望の進路の実現に向けてこれから受験勉強に邁進していくことでしょう。

そのような中、久しぶりに教え子が本校に訪ねてきました。彼は本校の卒業生で、成人式の日に一度会い、その時は医学の道に進むために大学に進学したと聞いていました。ところが、大学を途中で辞めたというのです。彼の話によると、大学で学んでいるうちに医者としてではなく、医者、患者、地域をつなげ、医療全体を幸せにする仕事に就きたいと考えるようになり、悩んだ末に一大決心をし、違う道を歩んだということでした。その話を彼から聞いた時、同じ立場なら大学をやめる勇気が持てたのだろうか、と考えてしまいました。しかし、生き生きとした表情で自分の歩む道を語る姿を見て、応援したいという気持ちになりました。同時に彼の話聞きながら、私の父のことが頭に浮かびました。

私の父は、75歳のとき、突然「大学に行く！絵の勉強がしたい！」と宣言して、大学受験に挑戦しました。家族がこれを聞いた時は大変驚き、高齢であることも心配して「大学へ行かなくても、今まで通り絵は描けるよ。」「何で今さら行く必要があるの。」と全員で反対しました。しかし、父の意志は固く、考えを変えません。自分で書類を揃えて受験をし、見事大学に合格することとなりました。その時の父のうれしそうな表情は今でも忘れられません。父は若い頃、画家になることが夢でしたが、祖父が亡くなったために授業料が払えず、やむなく大学を中退し夢をあきらめて働くことになったようです。以前、父がキャンパスの前で得意げに絵を描く古い写真を見たことがありました。その時は、何も感じませんでしたが、きっと父にとっては、ずっとあきらめず抱いていた夢だったのでしょう。

しかし、75歳の父にとって、大学生活はレポートの提出と絵画の制作に追われ大忙しで苦労する日々でした。そんな父に、「何でこの年になって大学へ行こうと思ったの？」と聞いたことがあります。私が聞いても答えてくれません。「絵の勉強をしたいから……。」と笑うだけです。大学は5年かけて卒業し、卒業後も東京、京都と描き上げた絵を持って飛び回り、大学の仲間と個展を開いたり、同窓会をしたりして楽しんでいました。かかりつけのお医者様にも「100まで生きる！」と言われたとよく自慢していました。父を見ていると、人は死ぬまで学ぶ意欲を持ち続け、それが生きるためのエネルギーになっているのだと感じます。

今はそんな父も 90 歳。大好きな車は免許を返納し、自転車も家族から止められ今は乗ることができません。毎日通っていたラジオ体操も足が動かず行けなくなりました。しかし、大好きな絵だけは今も描き続けています。自分の部屋にお気に入りの作品を飾り、時には作品集を見たり、スケッチブックにデッサンして色を塗ったりしながら楽しい時を過ごしています。

先ほど述べた教え子である彼と父は、歩んでいる道や考え方は違いますが、何か共通するものを抱いていると強く感じました。二人とも、夢や志を持っていること、また勇気と決断力があること、自分のやっていることに誇りを持ち続け、好奇心を常に持ち続け、人生を楽しんでいます。

吉田松陰の言葉に「悔いるよりも、今日直ちに決意して、仕事を始め技術をためすべきである。何も着手に年齢の早い遅いは問題にならない」という名言があります。2人の生き方から、志を決め実行する行動力は何歳になっても持つことができ、いつでも人間はやり直しができるということも感じました。

中学生の皆さんには、まだこのような経験はないかもしれません。しかし、この先「将来の夢」「将来の仕事」を考える時、自分自身をよく見つめることからスタートします。まずは、勉強するだけでなく、いろいろな経験を重ね、「生きていくために必要な方法」を学び、「生き抜くためのエネルギー」を蓄えてください。そして、志を持って自分の人生を豊かに楽しみながら歩んでください。



○生徒の活動の様子

～道徳の授業より (11/28)～

『だれを先に乗せる？』

サラリーマンのコジマは、車で会社に向かうために山道を走っている。道中、故障したバスと乗客たちに遭遇した。代替りのバスやタクシーが着くまでに1時間以上はかかるという。乗客は5人おり、それぞれが急いで下山しなくてはならない理由があるようで、とても困っている。コジマは自分の車で送り届けることを提案するが、自分の車に乗せられるのは3人だけだ。5人の乗客全員が「車に乗りたい」とコジマにお願いする中、だれを先に乗せるべきか、コジマは悩んでしまう。「相手の立場に立った思いやり」について考える。

○授業のふりかえりから

何かを選択するというのは、とっても難しいことだと思った。何かを選ぶときはちゃんと状況を把握して、その結果になったときにどうなるのかを考えなければいけないということが分かった。全てを選択することはできないから、絶対に何かを犠牲にしないといけないし、どの選択をしても「これが一番いい！」というものは無いと思うから慎重に良いところと、悪いところを考えないといけないと思う。普段の生活でも選択をしなくてはならない時がたくさんあるけど、悩んで人任せにしてしまったりしないで、自分でしっかり決められるようになりたいと思った。普段、どっちにしようかなって悩んで決めたのに、結局後悔するものだったと言うこともよくあるけど、自分が決めたことだから後悔ばかりしていないで良い方向に考えられるようにしたいと思った。相手の立場をしっかり考えるというのは大切だということも分かった。

A 組生徒

外見などで決めつけるのではなく、用件を聞いて判断することが大切だと思いました。「怖そうな男性＝良くない」というのではなく、どの用件が一番大切なのか内容をよく聞かなければなりません。また自分も急いでいるなかで相手のことも考え、瞬時に判断をするのは難しいなと思いました。将来、自分がこのような経験をするかも知れないので、その場に合わせた考えができるといいなと思います。

B 組生徒

最初は、見た目だけで乗せる人を決めていたけど、見た目だけで物事などを決めたりするのは良くないなと思いました。だから、これからは表面だけで何かを考えたり、決めたりしないようにしたいと思いました。みんなが納得して、何かを決めることは難しいと思うけれども、少しは譲り合うということも大切だと思いました。

C 組生徒



～全校書写(12/6)～

後期中間テスト終了後、全校書写が行われました。今年度の9年生の課題は「達成」でした。良い作品を書き上げることはできましたか？

